

『小學博物教授書』=轉載シアル『博物圖』ノ
いはたけ(石耳)ノ圖

カ ッ タ

著者ハ先日牧野先生ノ御宅ニアル古イ辭典ヲ引イテ見タラ次ノヤウナ譯ガ
出テキタ

文久二年(一八六二年)ノ『英和對譯袖珍辭書』ニハ Lichen ノ語ハ載ッテキ
ナイ、慶應三年(一八六七年)ノ本書第二版モ多分同様デアラウ、明治元年
(一八六八年)香港デ發行サレタ『英華辭典』ニハ「石耳、石蕊、石花、苔
菜」ノ譯語ガアル、明治四年(一八七一年)ノ『和譯英辭林』ニハ「草ノ名」ト
シテアル、明治五年(一八七二年)平文先生編譯『和英語林集成』第二版ニハ
ナイガ、同年開拓使發行ノ『英和對譯辭書』ニハ「草ノ名」トアル、又支那デ
發行サレタ『英華萃林韻府』ニハ「苔、石蕊、石花、地衣、仰天皮」ナドト譯サレ
テキル、明治六年(一八七三年)ノ『英和字彙』ニハ Lichen 「苔、頭瘡」ノ外
ニ Lichenic acid 苔酸^{マイセン}及^ア Lichenin 「依蘭苔越斯幾」ナド相當多クノ語ガ出

テキル

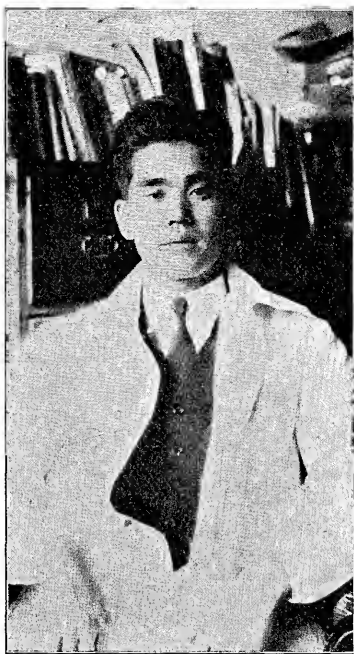
終リニ貴重ナ資料ヲ自由ニ見セテ下サツタ牧野先生ニ厚ク御禮申上ゲマス (1932. 4. 28. 稿)

○滿洲大平原ニ産スルあやめ屬ノ品類

滿洲教育専門學校 野 田 光 藏

余ハ恩師大賀博士ニ師事スルコト五年其ノ間御懇篤ナル御指導ニヨリ滿洲植物界ノ現情ヲ知得シ、先ヅ滿洲大
平原ノ植生研究ニ志シ此處ニ同大平原ニ産スルあやめニ就テ記シテ見タイト思フ

滿洲植物區域ニ於テ採集サレ紹介セラレテ居ルあやめハ二屬十五種ニシテ尙其ノ種名、生育地ノ不明ナルモノ五種アリ、即チ安奉線方面ヨリまんしうかさつばた、きんかさつばた、ひあふぎ、奉天北陵ノほくりようあやめ、安東ノえひめあやめ、南滿ノねむあやめ、大興安嶺ノ濕地又ハ谷間ニ主トシテ産スルあやめ、安奉線、吉長吉敦線、東支東部線ノはなしやうぶ、吉敦線ノきんかさつばた、哈爾賓方面ヨリ大興安嶺ニ生育スルいと



野田光藏君

(滿洲教育専門學校植物學教室)

ばあやめ、大連、旅順ノはなしやうぶ、土門嶺ノともんあやめ、鞍山、吉林方面ニ産スルあんざんあやめ、東滿洲山脈(長白山脈)ヨリ大興安嶺ニ廣キ分布ヲ有スルこあやめ、ひあふぎもどきガ採集セラレ尙ホきたのおほさあやめガ松花江流域、さしやうぶガシベリヤノトルカ河、ひあふぎあやめガ吉林省東部、きたのねぢあやめガ北滿ニ生育スルモノト思惟セラレテ居ル

スル滿洲平原ノ植生研究ニ依ツテ偶然ニモ此處ニ二屬九種ノあやめヲ採集シ尙ホ蒙古ニ種名不明ノモノアルヲ知レリ、是等ガ此ノ平原ヨリ産スル事ハ殆ンド知ラレテキナイシ此處ニ滿洲平原ノあやめトシテ紹介スル次第デアル

(1) ひあふぎ (Belamcanda chinensis LEMAN) 極メテ少數デハアルガ鄭家屯ボクトル山、昌圖山地ノ向地ニ生育スル

滿洲大平原ニ産スルあやめ屬ノ品類

(2) **ひあふぎもどき** (*Iris dichotoma* Parl.) 滿洲ニテハコマロフ (KOMAROV) ウェブスタ (WEBSTER, 1887) ガ北陵ニ於テ採集シタノヲ初メトシ旅順、大連、千山、鐵嶺、吉林、興安嶺ニ生育スル燥原性植物ニシテ滿洲ニテハ森林ノ伐採ト共ニ更ニ廣キ分布ヲ示スモノト思ハルル種ニシテ平原ニ於テハ四平街高地ニ自生セリ、コノあやめノ特異性トシテ記サレテキル様ニ他ノ種ト異リ八月中旬マデハ開花セズソレヨリ以後三週間乃至四週間ノ開花期ヲ有スルノハ留意スベキ事ト思フ



第一圖
ともんあやめ

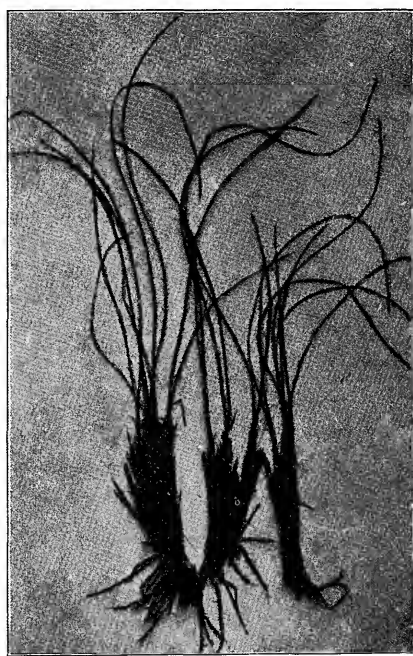
(*Iris Ohgae* MAKINO.)
(四平街半拉山門、野田撮影)

(3) **ねぢあやめ** (*Iris lactea* Parl. var. *chinensis* Koidz.) 滿洲ニ於テハ奉天ニ於テ WEBSTER (1887) 吉林ニ於テ KOMAROV (1890) ガ採集セシ以來南滿隨處ニ自生スル燥原性植物ニシテコノ平原ニ於テ特記スベキ事ハ四洮線(四年街—洮南)ノ玻璃山驛前マデ群落ヲ形成生育スルモ其レヨリ以北ニテハ僅カニ泰來、五廟子間一ヶ處ニ群生シテ居ル事ハ生態的ニ興味アルコトト思フ

(4) **ともんあやめ** (*Iris Ohgae* MAKINO.) (第一圖)、大賀一郎博士ガ土們嶺ニテ初メテ採集セラレシ以來其他ノ地ニ於テモ生育スルト雖モ余ハコレト同ジキ種ヲ四平街東南方三里ノ地點半拉山門ニ於テ採集ス、こあやめニ類似スルモ葉形、花莖共ニ大ニシテ花色ハ前者ニ比シテ淡青色デアアルガ或ハこあやめノ一變種デハナイカト思フ

(5) **あやめ** (*Iris orientalis* THUNB.) 滿洲分布區域ニテ綏芬河岸ニテ GULDENSTADT (17—) Lake Hanka ニテ BOHNHOF (1898-9) 奉天ヨリ吉林間ニテ JAMES (18—) Nertschink ニ於テ FREY (1889) Sachalin ニテ KARO

(1905) R. Amur. Near Raddle and Baschurova ニテ Komarov (1895) 氏等ガ採集シテ居リ現在ハ大興安嶺敦化方面ニハ極メテ普通ナル植物デアアルガコレ等ト遠ク離レテ平原ノ中央部タル鄭家屯ニ産スル事ハ面白イ



第二圖 いとばあやめ (*Iris tenuifolia* PALL.?)
(鄭家屯産、野田撮影)

(6) **いとばあやめ** (*Iris tenuifolia* PALL.?) (第二圖)、滿洲ニ於ケル分布ハ大興安嶺ヨリ哈爾濱地方ノ向地ノ砂地ニ生育スルト雖モ極メテ珍ラシキあやめノ一種ニシテ花色ハ淡紫色 葉ハ線形、余ハ鄭家屯、通遼ノ砂地ニ於テ採集セリ
(7) **あんさんあやめ** (*Iris tigridia* Bunge) (第三圖)、滿鐵線ノ蓋平、鞍山、首山及ヒ土們嶺、吉林方面ニ生育スルモ平原地方ヨリ採集シタノハ余ヲ始メトスル、此ノ種ハ外側ノ花瓣ノ中央縦線ニ沿フテ多細毛アリ、根ガ東ニナツテ居リ果實ノ形ガ長橢圓形デ尖端ハ尖ツテヨリ花候ハ四

五月、花ハ紅紫色

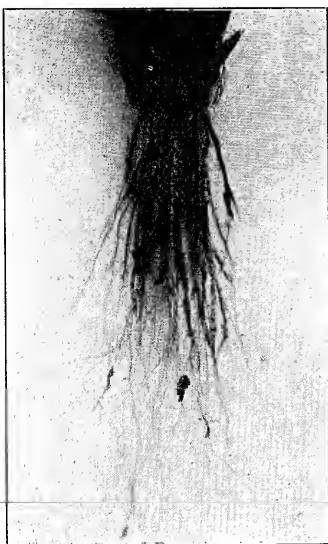
(8) **こあやめ** (*Iris uniflora* PALL.) 開豁ナル乾燥セル地ニ生育シ滿洲ニ於テハ極メテ多ク分布セルあやめノ一種デアアル、其ノ中ニハ葉ノ廣イモノト狭イモノトアリ、花莖ニ長短アリ、日蔭地ノモノハ葉幅及ビ花梗甚太シ乾燥地ノモノハ其根太クシテ大イニ分枝シ數本ヅツノ花梗ヲ抽ク、余ハ平原ニ於テ四平街高地ニ於テノミ採集セリ
(9) **しへいがいねぢあやめ** (*Iris ventricosa* PALL.) (第四、五圖)、PALLAS ノ説ニ據レバ此ノ珍ラシキあやめハ Sokutai (= ? Sokutu-jen) ノ近隣ニ於ケル愛渾河附近ノ向地ニ於テノミ發見セラレル種デアルト述ベテ居ルガ今日



第三圖 あんざんあやめ (*Iris tigris* BUNGE.)
(鞍山産、肥田木旭氏撮影)

ねぢあやめノ葉ニ類似スルモ堅ク厚クシテ詳細ノ點ハ稿ヲ更メテ後日發表スルコトニスル
要スルニ此レ等ヲ生態的ニ考察スレバ平原ノ植生狀態ガ想像セラレルト思フ、即チ内大陸性氣候ニシテ降水量
ハ四百耗餘、蒸發量ハ千七百耗以上ニ及ビ西風ヨリ吹き來タル蒙古風ハ砂丘ノ形成ト共ニ漸次東進シ此平原ヲ
乾燥セシメ生存スル平原ノ樹木ハ只榆樹ト柳樹トノミデ見渡ス限リノ草原ノ眞只中ニ鄭家屯附近ノ高地ガアリ

現存セル標本ハコマロフ氏 (1896, 5, 25) ガ綏芬
沿岸ノ草原ニテ採集セルモノアルノミニシテ其
以後ニ於テハ採集シタ人モナク今日ニ及ベリ、
余ハコノ貴重ナルあやめヲ四平街高地ニ於テ一
九三一年五月二十五日採集セリ、余ノ採集ハ廿
世紀ニテハ始メテバアリ且ツ邦人トシテハ初メ
テノ採集デアリ一發見タリ
本種ハ純然タル燥原性植物ニシテ乾燥セル高地
ニ群生シ其ノ特徴トスルところハ花序ト下方ト
合スル點ニアル佛燄苞ガ著シク膨大シ葉鞘部ニ
ハ規則正シキ並行脈アリ横脈ヲ以テ聯絡セラレ
テ居ル事デアル、Ventricosa ナル名稱ハ其ノ膨
大セル佛燄苞ニ由來スルモノデ他ノあやめト異
リ極メテ燥原性植物ノ特徴ヲ具ヘ比較的大キク
花ハ實ニ鮮明美麗ニシテ紅淡紫色デ葉ハ線形デ



第四圖 しへいがいねぢあやめ
(*Iris ventricosa* PALL.)ノ根部
(四平街産、野田撮影)



第四圖 しへいがいねぢあやめ
(*Iris ventricosa* PALL.)
(四平街産、野田撮影)

一般ニ平坦開豁一望千里ノ草原デアル、此ノ平原ハ概シテ土地肥沃ナルモ多クハ未開拓ノマ、デ禾本科植物繁生シ、おほひえんさう、さばなのかはらまつば、はなからまつ、ほそばしろくさぼたん、えぞつるさんばい、かうりんぎく、じゃしやうし、あざみ類、よもぎ類等が咲キ亂レ平原ノ到ル處ニ燥原性植物ヲ以テ特徴ヅケラレテ居ル

前述ノ九種ノあやめガ是等燥原性植物ノ中ニ極メテ散在的ニ少数生育シテ居ル事ハ興味アル事デアル、蓋シ是等ガ燥原性性質ヲ有スルコト、此ノ平原ノ種々ノ生態的要素ト相俟ツテ乾燥性ヲ帶ビル爲メデアラウ、尙ホ蒙古方面ニ一種生育シテ居ルガ調査不充分ナルヲ以テ省キ *Iris ventricosa* ハ北滿ニモ生育シテ居ルノデハナカラウカト云フ見地カラ山蔦一海氏ノ植物目錄ニハさたのねぢあやめト記シテアルガ滿洲ニ於テ否、現在ニテ發見採集セラレタルモノナク余ガ始メテ採集セルモノニシテしへいがいねぢあやめト稱シタラドウカト思フ